| 授業科目 | 器楽アンサンブル | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 1 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 2 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 山路　麻佳 | | | | | | |
| 授業概要 | 様々な楽器の扱い方や特性、奏法について学ぶとともに、子どもの実態に即した編曲の方法を学び、その楽曲を演奏したり互いに聴きあったりして器楽合奏への理解を深める。音楽の楽しさを、他者と行う器楽の演奏という面から追求し、子どもたちに豊かな音楽体験ができるような環境を作り上げられる保育者を目指して学びを深める。また、リズムやアレンジへの理解を深め、子どもたちに理解しやすい方法で自分で考えた音楽的構想を書き表す力をつけることで、保育の現場での指導法を習得する。 | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | | | | 授業方法 | グループワーク | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|---|---|
| 標準的レベル | 1. 保育の現場で日常的に使われる楽器の扱いや奏法について理解できる。<br>2. 子どもたちに理解しやすい方法で、自分の考えた音楽的構想を書き表す力をつけ、任意の楽器を用いてアンサンブルをすることができる。<br>3. リズムやアレンジ方法への理解を深め、保育の現場での音楽の活用法や指導法を習得できる。<br><br>楽器の扱い方や奏法について理解し、楽器を用いた合奏をすることができる。読譜力を向上させ、正しいリズムでの演奏と、その指導ができる。 |
| 理想的レベル | 楽器の扱い方や奏法について理解し、楽器を用いた合奏をすることができる。正しいリズムでの演奏と、その指導ができるとともに、各種楽器を用いた編曲方法についても理解を深め、保育の現場で活用できる応用力を身につける。 |

| 評価方法・評価割合 | | |
|---|---|---|
| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
| 試験 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 50% | |
| レポート外の提出物 | 30% | ポートフォリオ等 |
| その他 | 20% | 授業での発言など積極的な参加姿勢 |

| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DP1 | - | DP2 | - | DP3 | - | DP4 | - | DP5 | ○ | ナンバリング | CH11337J |

| 学習課題（予習・復習） | 1 回の学習目安（時間） |
|---|---|
| アンサンブルを楽しみ、理解を深めるためには各自のパート練習が大切になります。<br>授業内だけでなく、毎回の授業に向けて練習・確認に努めてください。 | 1 |

| 授業計画 | |
|---|---|
| 第 1 回 | テーマ：オリエンテーション<br>授業の概要について説明し、授業の目的、達成の目安、評価の内容と方法を理解する。 |
| 第 2 回 | テーマ：リズムと楽譜の読み方 |

| | |
|---|---|
| | 楽譜の読み方について復習する。リズムの特徴を活かし、声や身体を使ったリズム遊び、アンサンブルを行う。 |
| 第 3 回 | テーマ：打楽器の取り扱いと奏法<br>リズム楽器(体鳴楽器・膜鳴楽器)の取り扱いと奏法について理解する。 |
| 第 4 回 | テーマ：打楽器によるアンサンブルの実践 1<br>楽譜から正しいリズムや奏法を読み取り、表現し発表する。 |
| 第 5 回 | テーマ：打楽器を使ったアンサンブルの実践２<br>楽曲に適した打楽器を考え選択し、リズムを創作・記譜する。 |
| 第 6 回 | テーマ：打楽器を使ったアンサンブルの実践 3<br>創作した楽曲の表現を深め、演奏発表を行う。 |
| 第 7 回 | テーマ：鍵盤楽器の取り扱いと奏法<br>鍵盤楽器の取り扱いと奏法について理解する。 |
| 第 8 回 | テーマ：鍵盤楽器を使ったアンサンブルの実践 1<br>グループに分かれ、楽曲を選択しアンサンブルを深める。 |
| 第 9 回 | テーマ：鍵盤楽器を使ったアンサンブルの実践 2<br>グループに分かれ、楽曲を選択しアンサンブルを深める。 |
| 第 10 回 | テーマ：鍵盤楽器を使ったアンサンブルの実践３<br>グループごとに演奏発表を行う。 |
| 第 11 回 | テーマ：鍵盤打楽器の取り扱いと奏法<br>鍵盤打楽器の取り扱いと奏法について理解する。 |
| 第 12 回 | テーマ：器楽合奏の創作と実践 1<br>グループでテーマを設定し、合奏の編成、効果的な楽器の活用と表現を考える。 |
| 第 13 回 | テーマ：器楽合奏の創作と実践 2<br>発表に向けてグループで打ち合わせ、練習を進める。 |
| 第 14 回 | テーマ：器楽合奏の創作と実践 3<br>発表に向けてグループで打ち合わせ、練習を進める。 |
| 第 15 回 | テーマ：器楽合奏のグループ発表<br>グループ発表を行い、授業の振り返りとまとめを行う。 |
| テキスト | 指定なし（適宜プリントにて配布予定） |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 音楽之友社『ボディパーカッション入門　体を使った新しいリズム表現』<br>音楽之友社『楽しいボディパーカッション』<br>全音楽譜出版社『打楽器教則本』<br>その他プリント（楽譜）を適宜配布する。 |
| 課題に対するフィードバックの方法 | 授業内にその都度コメントを返します。 |

| | |
|---|---|
| 学生へのメッセージ・コメント | 小編成のグループ実践や発表を中心に進行する予定です。<br>グループ内で積極的に意見を交わしながらアンサンブルへの理解を深め、想像力豊かな創作体験を通して、発達段階に応じた音楽の楽しみ方や保育の現場での活用法について考えてみましょう。 |